

	中期経営目標 【3年間】	短期経営目標 【1年目】	目標達成のための手立て	評価項目<評価方法>	評価	最終評価
確かな学力	基礎・基本の定着及び課題発見・解決学習の充実<問題解決能力育成>	<ul style="list-style-type: none"> 「書く力」「伝え合う力」を高める指導及び家庭学習の定着のより一層の充実を図り、自分の考え等を分かりやすく書き、伝え合うことのできる生徒、また、自ら学ぶ力を身に付けた生徒を育てる。 	<ul style="list-style-type: none"> 「めあて」と「まとめ」の整合性を図り、「振り返り」を充実させる。 書いたことを伝え合う場面（ペアやグループでの学習活動等）を充実させる。 各学年の家庭学習目標時間に応じて、宿題の出し方（量、期限等）を教科担任間で連携・調整する。また、学習委員会で「宿題一覧表」を作成・管理し、宿題や自主学習ノート等の点検活動を定期的に行う。その状況を担任も確認し、必要に応じて保護者連携を行う。 	<ul style="list-style-type: none"> 「基礎・基本」定着状況調査(6月)の平均通過率 60%以上の生徒 80%以上、30%未満の生徒 0 ※昨年度～今年度6月までの取組の検証として 自分の考え等を、「ノートに分かりやすく書いている」「ペアやグループでの学習活動等で、分かりやすく伝えている」生徒 70%以上<生徒アンケート> 	3	<ul style="list-style-type: none"> 「基礎・基本」調査問題(6月実施)の結果によると、平均通過率 60%以上の生徒の割合は、国語:82.9%、数学:73.0%、理科:38.8%、英語:63.8%であった。平均通過率 30%未満の生徒の割合は、国語:0.7%、数学:2.7%、理科:15.1%、英語:7.2%であった。 「基礎・基本」調査問題(6月実施)の結果後、指導法等の改善計画に従って授業の中で復習等を行った。定期テストにおいても、分析等を行い、各担当教員が担任と連携し、自主ノートのやり方や内容を工夫させるなど、基礎・基本の学力の定着を図っている。 「ペア・グループ学習活動等で、自分の考えをわかりやすく伝えている」生徒は 73%、「自分の考え等を、ノートなどにわかりやすく書いている」生徒 83%、であった。目標達成率 70%は達成できたが、本校の研究にも係る協働学習については、意識して仕組んでいく必要がある。 協働学習を通して、自分の考えを整理し、わかりやすく相手に伝える力を伸ばしていく。そして、自分自身がより内容を理解するだけでなく、相手の学びのヒント(異なる意見を知る、良いところを取り入れるなど)となるような「学び合い」にしていく必要がある。
		<ul style="list-style-type: none"> 課題発見・解決学習(問題解決能力等の育成)の充実を図る。「学びの変革」パイロット校事業指定) 	<ul style="list-style-type: none"> パイロット教員を中心とし、課題発見・解決学習の過程において、問題解決能力等の育成に有効な「すべ」を研究する。(特定の教科等及び特定の学年・学級、単元において研究する。特定の教科等<予定>:社会・数学・理科・英語・音楽・総合的な学習の時間) 	<ul style="list-style-type: none"> 「特定の教科等の課題発見・解決学習の過程において単元を特定して『すべ』を開発できた」と肯定的な回答をする関係教師の割合が 100%(年度末等教員アンケート) 	4	<ul style="list-style-type: none"> 「特定の教科等の課題発見・解決学習の過程において単元を特定して『すべ』を開発できた」と肯定的な回答をする関係教師の割合は 100%であった。 『すべ』においては、「学びの変革」パイロット校事業の研究をすすめるなかで、『すべ』に係るキーワード及び具体的内容をまとめ、汎用性のあるものを開発することができた。来年度、全職員に『すべ』に対しての共通理解をはかるとともに、各教科において実践を進めていく。
豊かな人間性の確立	豊かな人間性の確立	<ul style="list-style-type: none"> 生徒指導上の諸課題の把握と対応を、迅速かつ組織的に進める。 生徒指導と生徒会活動との連鎖的な取組・指導を工夫し、規律正しく生活できる生徒を育てる。 	<ul style="list-style-type: none"> 遅刻・欠席が連続する生徒を日常的に把握し、組織的な対応を迅速かつ段階的に行う。(生徒指導担当者会、学年会、企画委員会などでの交流・検討) 学年・全校朝会を定例化する。(隔週で行い、課題意識の共有化を図り、解決への道すじを示唆する。 「時間・あいさつ・そうじ」のレベルアップを図る取組・指導・評価を行う。(生徒会活動と連動させながら、期間を決めて行う) 	<ul style="list-style-type: none"> 「休まないこと・遅れないことを意識しながら生活している」「授業・掃除・学活等の開始時間を守っている」「身だしなみ(服装・頭髪)のルールを守っている」という質問に対して、肯定的な回答をした生徒は全体では 96%を超えており、目標値を超えることができた。教職員の声かけや生徒会活動により、生徒の意識の向上につながっている。しかし、下校時間や掃除開始の時間、服装面について注意・指導する場面はまだ多くあり、生徒の回答と実態に差がある。生徒・保護者に対して生徒指導規程・校則を周知徹底し、職員の意識や行動を統一して生徒指導体制をより強化していく。また、生徒会活動とも連動させる動きをさらに活発化していく。 「本気で(時間いっぱい、ていねいに)掃除をしている」という生徒は全体では 90%で目標値を超えている。環境整備委員会の取り組みとして、黙働清掃活動や掃除コンクールをすすめることで、意識が高まっていると思われる。しかし、掃除開始 5 分前の行動や開始時間に全員がそろうことが十分にはできていないことや「時間一杯掃除しない」生徒が固定化している実態もあるので生徒会と連携した取り組みを進める。さらに、個別の指導をする。 「誰にでも、自分からあいさつをしている」生徒は 94%で目標値を超えることができた。今後はさらなる質の向上をめざして取り組みを進めるとともに、保護者や地域の方などへも「すすんであいさつをする」学校風土を築いていくよう心掛ける。 生徒指導部と生徒会担当・学年部との連携が上手くできず、学年・全校朝会の定例化ができなかった。「時間・あいさつ・そうじ」のレベルアップを図る取組・指導・評価を進めるためにも見直しの必要がある。 	4	
		<ul style="list-style-type: none"> 認め合い・支え合える学級集団づくりを進めるとともに、生徒主体の自治的活動をより充実させ、思いやりの心やリーダー性を発揮できる生徒を育てる。 	<ul style="list-style-type: none"> Q Uアンケートを年間2回行い、データを参考にしながら学級集団づくりを進める。(分析結果等を夏季校内研修や学年会で交流し、データを活用する) 月別生徒会目標を具現化する。(活動や点検・評価活動等を毎月の各種委員会で協議し、計画的に行う) 生徒会主体の全校朝会を定例化する。(月1回程度し、目標や課題の共有化を図る) リーダー指導・育成を進める。(学校・生徒会行事や執行部会・部長会・小中リーダー研修等を活用する) 	<ul style="list-style-type: none"> 「自分たちのクラスは、互いの良さや足りないところを認め合い、支え合おうとしている」生徒 70%以上 「毎月の生徒会目標を意識して生活している」生徒 70%以上 「行事(体育大会・文化祭など)や生徒会活動(執行部・各種委員会など)、学級活動(係・班など)、部活動で、自分の役割を果たそうとしている」生徒 80%以上 	3	<ul style="list-style-type: none"> 「自分たちのクラスは、互いの良さや足りないところを認め合い、支え合おうとしている」と肯定的に回答した生徒は全校の 80%で、目標を上回ることができた。しかし、「よくあてはまる」と回答した生徒は、3割程度にとどまっている。学活での係や委員の発言の機会の設定や、返事や返礼、反応をするなど、相手意識を持った行動ができるように継続的に指導していく。また、道徳の時間で扱った人と人との関わりを扱う内容を、意図的に普段の生活と結びつけて考えさせていく工夫も必要である。 「毎月の生徒会目標を意識して生活している」生徒は全体で 69%と目標に及ばなかった。通信や学活での意識づけを続けていく。また、委員会活動との関連を図り、生活のキーワードとして位置づくように、学校全体で取り組む。 「行事や生徒会活動、学級活動、部活動で、自分の役割を果たそうとしている」生徒は、95%と目標を上回った。生徒が主体的に取り組めるような役割や分担を設定し、体育大会が行われた1学期を土台に、文化祭という大きな行事に取り組み、多くの生徒がやりがいを感じている。「まったくあてはまらない」という回答が 0%になり、次年度以降も継続できるように行事の内容の質を向上させていく。 上記にもあるように学年・全校朝会の定例化ができなかった。来年度の課題としたい。
健やかな体	生きていく基礎・基本となる体力の育成	<ul style="list-style-type: none"> 体育授業や部活動・委員会活動等を通して、「体力づくり」「生活リズムの保持・向上」に係る取組・指導を連鎖的・継続的に行い、全身持久力を中心にバランスのとれた体力を身に付けた生徒を育てる。 	<ul style="list-style-type: none"> 体育授業の準備・補強運動に体力を高める運動(特に全身持久力)を計画的に取り入れる。 「体力づくり」「生活リズムの保持・向上」に係る取組(部活動強化週間、生活リズム向上キャンペーン、駅伝大会等)を毎学期1回企画・実施・評価する。 「昼休憩のボールや縄跳びの貸し出し」等を行い、運動が行いやすい環境づくりを進める。 	<ul style="list-style-type: none"> 新体力テスト(①5～6月、②11月～2月)の「全身持久力」の項目において、各学年男女とも全国平均・県平均を上回る。 「体力を高めることを意識しながら生活している」「生活リズムをよりよくすることを意識しながら生活している」生徒 70%以上 	3	<ul style="list-style-type: none"> 体育授業や部活動・委員会活動等を通して、「体力づくり」「生活リズムの保持・向上」に係る取組・指導を連鎖的・継続的に行うことができた。「体力づくり」においては、全身持久力を高める取り組みとして5分間走を行った結果、「全身持久力」の項目において県平均を越えられていなかった1年男子が県平均を越えた。1,2年女子は、県平均は越えられていないが、向上が見られた。更なる向上を目指し、坂道や階段のあるコースを走らせるなど5分間走の質を改善し、次年度も引き続き取り組んでいきたい。そして、体力を高めることを意識しながら生活していると肯定的に回答した生徒が全体の64%であった。目標値の70%を下回った。しかし、部活動対抗駅伝大会(3月実施予定)に向け、各部活動が積極的に校舎周りを走るなどし、体力向上に取り組んでいる。体力向上意識を高めるために次年度も継続して行っていく。 「生活リズムの保持・向上」については、睡眠の質とメディアの使用との関係について、全学年に養護教諭が講義を行い、保健委員会で睡眠の調査を行った。生活リズムを意識して生活することができていると肯定的に評価した生徒は全体の80%を超えた。これに関連して、メディアを4時間以上使用する生徒が23%から16%に減少したことから、睡眠の質について講義を行ったことで良い目覚めを意識づけることができたと考え。次年度も継続して講義やアンケート調査を行い、生活リズムの保持・向上を図りたい。